

令和元年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案への対応状況

1 基本情報

議論した施策	生涯を通じた健康づくり		
実施日/班名	10月27日(日) 第6班	担当部局名	健康福祉部 健康増進課 国民健康保険課
目標	○科学的知見の活用により健康施策の充実を図り、自身の健康に関心を持ち、健康づくりに取り組む県民を増やします。		
主な取組	① 家庭・事業所・地域における「健康経営」の推進 ② 世代に応じた健康長寿3要素の普及の推進 ③ 歯や口の健康づくりの推進		

2 施策背景

<ul style="list-style-type: none"> ■ 一人ひとりが安心して健やかに自分らしい生活をおくることができるよう、県は、県民が心身共に健康に暮せるよう様々な健康づくり施策を展開している。 ■ 「健康」は、豊かさ、楽しさ、明るさなどのこころの充実を重視した生活の質の向上が図られるとともに、医療費の削減や超高齢社会における介護予防にも大きな影響をもたらすものである。 ■ 本県の健康寿命は世界でもトップクラスであり、メタボリックシンドローム該当者の割合も全国2番目に低く、健康長寿県といえる。 ■ 多くの疾患で、全国に比べて死亡率は低い状況であるが、高齢化等により、がんの死亡者数が増加しており、また、脳血管疾患の死亡者が全国に比べて多い状況にある。 ■ メタボリックシンドロームや高血圧症の該当割合などは、地域的な違いがあり、地域の実情に応じた健康づくり対策に取り組む必要がある。 ■ 国民生活基礎調査によると「健康上の理由で仕事や家事に影響ある方の割合」は、全国に比べ低い年代が多いが、6歳から19歳、30歳から34歳、50歳から54歳が全国と同様な値となっており、この年代を健康にすることが健康寿命の延伸には欠かせない。 ■ 特に、次の世代を担う子どもたちのために健康的な環境づくりに取り組むことは、将来の全世代の健康につながるものである。

3 現状・課題と施策の方向

現状・課題	県の施策の方向
<ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県の健康寿命はトップクラスであるが、2016年度の女性の平均寿命は縮小し、全国順位を下げている。 ・ 平均寿命と健康寿命の差は、男性が約8年、女性が約11年である。 ・ 当県では、がんの死亡者が増加しており、また、脳血管疾患の死亡者が全国に比べて多い状況にあり、たばこ対策を含めた生活習慣病の発生予防、早期発見、重症化予防等の対策を進める必要がある。 ・ 健康寿命の算出に用いられる「健康上の理由で仕事や家事に影響がある割合」では、全国と比べ、子ども世代と働き盛り世代で高くなっており、この年代が今まで以上に健康になっていくことが健康寿命の延伸には欠かせない。 ・ 健康寿命の延伸を実現するためには、働き盛り世代への働きかけを強化するとともに、生涯を通じた健康づくりに着目し、子ども世代からの健康増進と疾病予防等に取り組むなど、家庭・事業所・地域の県全体で、全世代において健康づくりを進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭・事業所・地域において健康経営の視点を取り入れた戦略的な健康づくりを推進
	<ul style="list-style-type: none"> ➡①家庭・事業所・地域における「健康経営」の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 禁煙と受動喫煙防止対策を推進
	<ul style="list-style-type: none"> ➡①家庭・事業所・地域における「健康経営」の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児から高齢期まで、世代に応じた「身体の健康」と「こころの健康」の維持向上を支援 ・ 子どもの頃から食についての正しい知識を身につけ、健全な食生活を実践する食育を推進
	<ul style="list-style-type: none"> ➡②世代に応じた健康長寿3要素の普及の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「運動」「食生活」「社会参加」に着目した健康づくりを推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ➡②世代に応じた健康長寿3要素の普及の推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ オーラルフレイル（口腔機能低下）対策を推進 ・ 障害のある人や介護が必要な人への歯科保健医療対策を推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ➡ ③歯や口の健康づくりの推進 	

4 施策の改善提案とその反映状況

静岡県は、健診データ等の統計分析など、先進的な取組を行っており、健康寿命が全国2位、メタボ非該当者の割合も全国2位と健康度が高い。現状を更に伸ばし健康長寿日本一となるためには以下のような方策が必要である。

- 大病経験者の言葉を、健康無関心層へ届ける機会の創出（特に子どもや若い世代の接点を増やす）
- 健診データの統計分析など健康に関する先進的な取組を県民に伝えるための情報発信の強化（特に若い世代を対象としたSNS等による情報発信）
- 健康度の地域格差解消のための原因分析と対策（分析データの更なる活用）
- 健康と大きく関わりのある食の重要性を認識してもらうための取組
- 「健診を受けたい」などの必然性を作ることによる健康診断受診率と健康意識の向上

行政も健康への対策は行うが、自分の体は自分で守ることが根底にあることを県民に周知する必要がある。

- 県の健康施策を広く周知するため、SNSをはじめとした様々な手法により、特に若い世代や無関心層に対して情報発信をすべき
また、健幸アンバサダーの拡充を図ることで身近な人からの情報発信に取り組むべき

健康づくりに関心のない方や消極的な方への働きかけは非常に難しいため、「若い時期から」、また「健康な時期から」健康づくりに興味をもっていただくにはどういった取組が有効か、企業の若手職員に参画いただくプロジェクトチームを2020年度に立ち上げて検討していく。

県の健康施策及び県内企業や団体が実施する県民向け健康づくり事業をまとめ、2020年度に「まるとぐらんどメニュー」として積極的に広報していく。

健幸アンバサダーについては、包括連携協定を結んでいる民間企業と協力して取組を進めるなど、引き続き、人材育成と積極的な活用を進める。

<2020年度新規取組>

民間協働による健康課題解決プロジェクト推進事業(新規)

- 疾病体験者の方が若い世代等に体験談を語っていただく交流の場や機会を創出し、健康づくりに取り組むきっかけづくりが必要

健幸アンバサダースキルアップ講座など県民向けの研修会や講演会において、疾病体験者の方の体験を語る場を盛り込むなど、交流機会を設けていく。

また、生活習慣病の予防のためには、幼少期から健康的な生活習慣の定着が必要であることから、2020年度から、県が実施している子ども向けの出前講座などで、疾病体験者の体験談を紹介するなど、健康づくりに取り組むきっかけを創出していく。

- 市町や教育機関、企業等と連携し、若い世代や無関心層に対して健診受診を促す仕組みの構築が必要

若い世代を含めた働き盛り世代に対する健康づくりに関する情報提供や健診受診促進など、企業の健康経営を支援していく。

また、健診受診の促進に向け、市町等保険者と連携し、健診受診促進キャンペーンを実施していくほか、先進事例や好事例などの情報収集・提供により有効な取組の横展開を図る。

- ヘルシーメニュー「しずおか健幸惣菜」を、社員食堂だけでなく高校・大学等の給食や学食などへ拡大や、全国に先駆けて取り組んでいる食育の更なる推進により、食事について日常的に考える機会を創出すべき

「しずおか健幸惣菜」の普及を進めるため、2020年度から「しずおか健幸惣菜の基準」を満たしたメニューを提供する社員食堂や市販弁当、市販惣菜の認定に取り組み、食育の推進や食べることの大切さを普及していく。

<2020年度新規取組>

民間協働による健康課題解決プロジェクト推進事業(新規)

- 県の取組と健康マイレージのポイントを連携するとともに利便性を高めることで、県民が行動に移した際にインセンティブを感じる仕組みの構築が必要

若い世代の健康マイレージ事業の利用促進を図るため、SNS等を活用し大学や企業の若手職員への情報発信を強化する。

また、インセンティブを高めるため、新たな協力店の掘り起こしと、県ホームページでの協力店検索システムの機能強化を図り、より一層利用しやすい仕組みづくりを推進する。

- 県の調査により判明した健康の地域格差の分析を進め、県民や企業に情報発信するとともに、市町と連携し地域格差の解消に取り組むべき

引き続き医療保険者の協力を得て、特定健診データ分析を行い、健康に影響を及ぼす様々な要因の分析を進め、市町に分析結果等を提供することで地域格差の解消に取り組む。